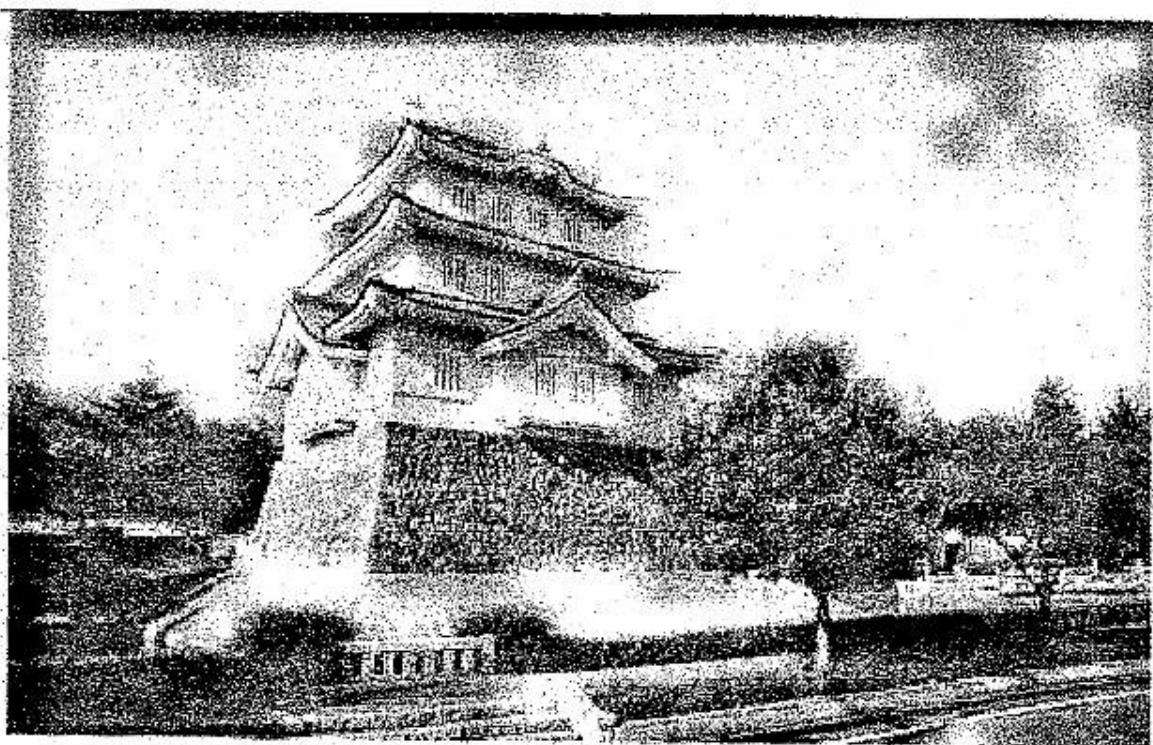


平成十九年九月二十九日（土）

第三七一回史跡めぐり

秋風に
歴史の口マン漂う
行田

NPO法人 越谷市郷土研究会



第三七一回 史跡めぐり

秋風に歴史のロマン漂う行田

日 時 平成十九年九月二十九日（土）
集 合 越谷駅東口広場 午前八時十五分

コース越谷駅＝＝羽生駅＝＝秩父線羽生駅＝＝行田市駅

大長寺……横田酒造（見学・試飲・買物）：蔵の街を歩く……

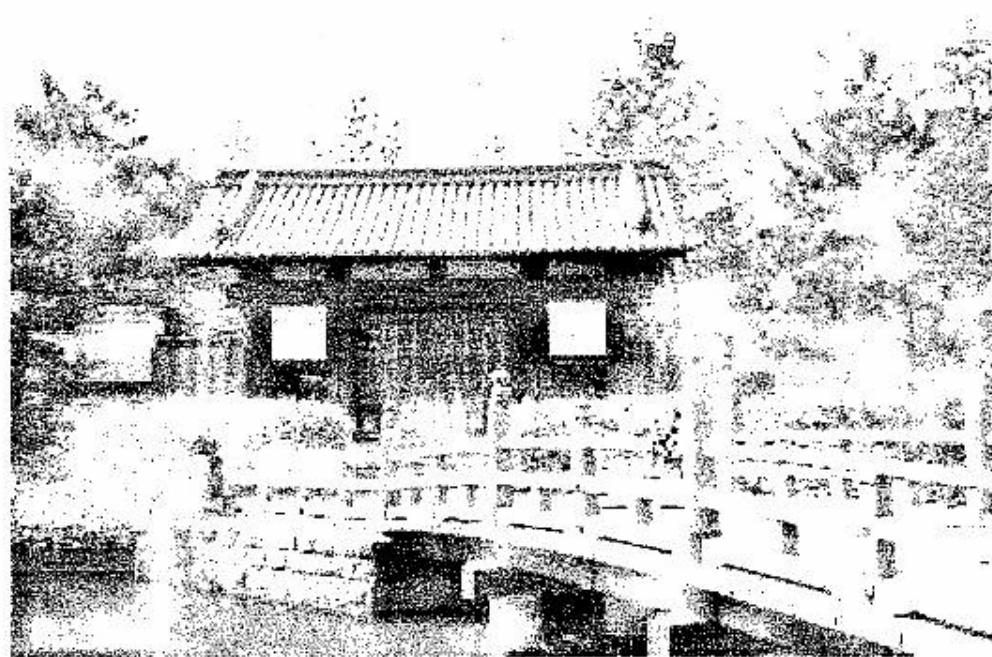
天神社……田山花袋碑……水城公園（昼食）……

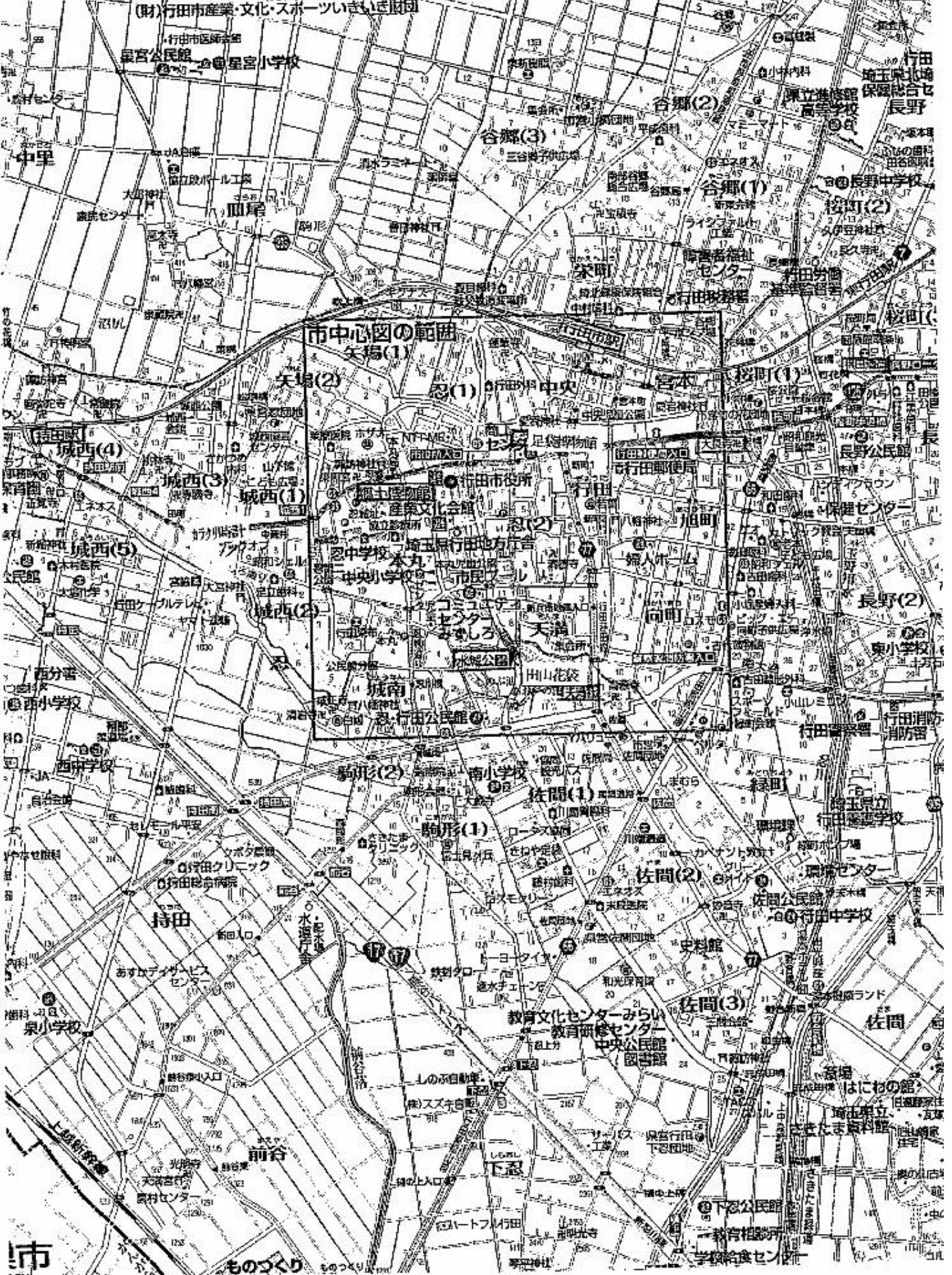
足袋とくらしの博物館……忍城博物館……城西からくり時計……

持田駅＝＝羽生駅＝＝東武線羽生駅＝＝越谷駅（十八時十分予定）

参加費 三千五百円（交通費・入館料・資料・保険料を含む）

案内者 常任理事 菅波昌夫





◆ 行田市

埼玉県北部に位置する、水と緑に恵まれた市で、昭和二十四年（一九四九）忍町が市制施行して改稱、平成十八年推計 八万九千人。荒川扇状地東端から、利根川南端の加須低地にまたがる。

開発の歴史は古く東部には埼玉古墳群、西部の条理遺構等が存在し古代から開かれていた事が解る。県名発祥の地とされる、「さきたま古墳群」を始め忍藩十萬石の面影を残す、忍城から風土記の丘、古代蓮の里数多くの史跡、文化財を抱えるロマン漂う城下町である。また、行田の名を全国に広めたのは最盛期に全国シェアーの約八十%の足袋を生産し、その技術と伝統が受け継がれている事である。

◆ 横田酒造

文化二年（一八〇五）創業の老舗作り酒屋。初代横田庄衛門氏は近江商人で現社長横田保良氏は六代目となる。庄衛門氏は良い水を求め一八〇五年に荒川水系の伏流水で弱軟水を使い同地に開業したのが始まり。

代表銘酒の「日本橋」は五街道の起点である日本橋に由来し、「浮城」は石田三成軍の水攻めにも落ちなかつたという故事から付けられたという、また赤米を使った口マン漂う古代酒は埼玉産の米に地元の名水、昔ながらの製法で平成十八年三月販売される。また、第六十七回関東・信越・酒類鑑評会が昨年十一月開催され最優秀授賞者には、埼玉県の横田酒造（株）の「日本橋」が選ばれ、全国新酒評議では最高の金賞に一〇回輝き県内でもトップクラスに数えられる酒造である。



横田酒造跡会社

文化2年創業 清酒「日本橋」「浮城」
の醸造元で、酒蔵見学もできます

◆ 大長寺

亀通山行田院と号し浄土宗の寺院。開山は浄土宗大本山、智恩寺法主二十九世寂善上人で元龜く天正の頃（一五七〇～一五九一）開創される。

上人は奥州方面へ巡教に発ち途中、埼玉郡斎条村の原口興左衛門宅に滞留した事を縁に、その一族の帰依を受け大長寺を建立したのが始まりとされる。其の後阿部忠秋が寛永十六年（一六三九）忍藩主として入り菩提所となり七堂伽藍が整い全盛を極めた。元禄期と明治元年には火災で全焼したが、再建され現本堂は昭和五十八年（一九八三）新築された。多くの寺宝はほとんど焼失したが往時の物に文政二年（一八一九）千重姫君寄贈の狩野重政筆「涅槃図大掛軸」他数点がある。その他、露座の大仏・六地蔵・閻魔堂・塩地蔵・芭蕉句碑等がある。

◆ 大長寺大仏

以前の大仏は忍藩主阿部氏寄進の享保十二年（一七二七）の重要な文化遺産であり壇信徒始め広く民心を魅了し慕われてきたが、先の大戦に際し國家の要請に応え、梵鐘・大仏と共に昭和十八年（一九四三）献納せしめられた。その後壇徒一同相語り淨財を得、平成八年（一九九六）五十年振りに復元された。身長三・六メートル・総高七・四メートル・重量六・七トン

◆ 三界萬靈

一切衆生（命あるもの一切の生物）の生死輪廻（同じ事を繰り返す事）する三種（欲界・色界・無色界）の界。いわゆる衆生が活動する全世界を指す。



◆ 佐間天神社

創建は、忍城主の成田氏が今から五〇〇年前、忍城築城の折、天神坊を慈眠山安養院の守護神として天神社を勧請した。

享保五年十二月（一七二〇）京都の唯一神道、吉田殿より「正一位天満天神」の神格を与えられた。その後、文化十年八月（一八一三）本殿が再建されている。本殿に安置されている天神座像は、春日の作と伝えられており、天神社は学問の神様、菅原道真公が祭神として祀られている。神門は安政三年（一八五六）火災で類焼したが此処で火が止まった為、火防の門と呼ばれた、特に七月の八坂祭・元旦祭は大変に賑わいを見せ、

この様に古い歴史を持つ天神社は佐間地区の鎮守として広く人々から信仰されている。

境内の「けやき群」は樹令四〇〇年以上で幹廻り四メートル・高さ二〇メートル落雷のため幹に洞穴のあるものもありますが樹勢は極めて旺盛です。



◆ 田山花袋（一八七一～一九三〇）六十才没

明治・大正時代の小説家、群馬県館林の生まれ。父は士族で西南戦争で戦死のため、小学校卒後上京して書店に奉公しながら、東西の文学に親しみ作家を志した。二一才で尾崎紅葉の弟子となる、二七才で国木田独歩・松岡（柳田）国男らと共に詩集「抒情詩」を刊行、三二才で自然主義文学の先駆けとなる。以後、一兵卒・生・妻・田舎教師を発表、大正期には歴史小説・私小説等も書き近代文学史上大きな影響を及ぼした。

田山花袋の一生（年齢は数えどし）

- 1871年・1歳 群馬県に生れる。
- 1886年・16歳 文学をこころざして東京に出る。
- 1891年・21歳 尾崎紅葉の門に入る。
- 1897年・27歳 詩集『わが影』を発表。
- 1902年・32歳 小説『重右衛門の最後』を発表。
- 1906年・36歳 『文章世界』主筆となる。
- 1907年・37歳 短編小説『蒲団』を発表する。
- 1908年・38歳 『一兵卒』『生』『妻』を発表。
- 1909年・39歳 『田舎教師』を発表する。
- 1916年・46歳 『時は過ぎゆく』を発表。
- 1930年・60歳 病氣でなくなる。

田舎教師文学碑



絶望と悲嘆とに囚へゆられるやうな
まことなる生活を送れ
運命に従うものを勇者といふ

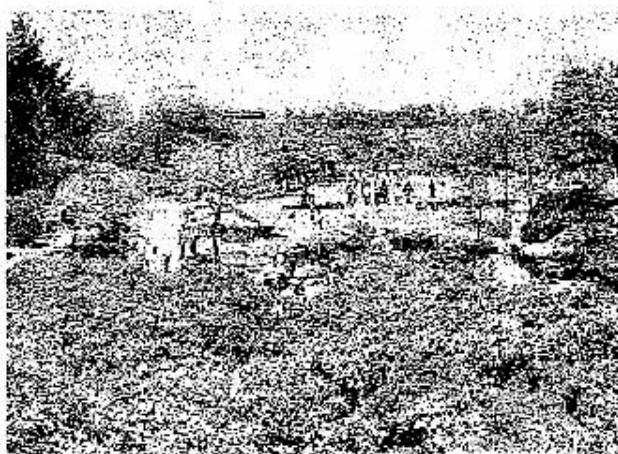
◆ 水城公園

昭和三十九年（一九六四）四月に開園した埼玉県内でも最も古い都市公園の一つです。

忍城の外堀跡を利用して、市民の広場として芝生の美しい憩いのオアシスです。季節により二百本の桜・紫陽花・つつじ、滝の流れる鯉の池にはホティアオイが咲き乱れ、また、浮き釣り専用の釣り場として開放され市民に親しまれている。園内には田山花袋の小説「田舎教師」の一節が刻まれている碑がある。

◆ 市内に有る七つの芭蕉句碑

- | | | | |
|--------|---------|-------|-------------|
| 一 古池や | 蛙飛びこむ | 水のおと | 行 田 · · 大長寺 |
| 二 名月や | 池をめぐりて | 夜もすがら | 上池守 · · 天神社 |
| 三 父母の | しきりに恋し | 雉の声 | 北河原 · · 照岩寺 |
| 四 あの雲は | 稻妻を待つ | たよりかな | 須 賀 · · 如来堂 |
| 五 両の手に | 桃と桜や | 草の餅 | 須 賀 · · 須賀家 |
| 六 春もやや | けしきととのう | 月と梅 | 藤 原 · · 竹内家 |
| 七 名月の | 花かと見えて | 棉畑 | 埼玉野 · · 高橋家 |



◆ 足袋とくらしの博物館

埼玉県のNPO活動本格化支援助成を受けて、平成十七年十月八日に開館する。

当館は老舗の足袋店、牧野本店の大正期の工場と土蔵を改装し、昭和初期の足袋全盛時代の工場の様子を再現したものです。足袋作りの工程をコンピューター制御により解りやすく解説し、2Fには大正期から昭和期の種々の足袋に関する総ての物が展示されております。

江戸中期の享保年間（一七一六～一七三五）には三軒の足袋屋があり忍藩の保護のもとに農閑期の内職として盛んとなり昭和十三年には全国の八十%を占めたが、戦後は著しい服装の変遷に伴い、現在では二十社余りが一年間約百四十万足全国シェアの一の約三十五%を占めるに至っている。

◆ 足袋藏

足袋藏は出来上がった足袋を出荷するまでの間しまつておく倉庫です。行田の足袋は、江戸時代の終りの頃から昭和三十年代前半までの約一〇〇年間に渡って建てられました。土蔵の他、石蔵・レンガ・コンクリート・モルタル・木造等、大きさやデザインに個性があり、約七十陣の蔵があります。



室町時代の文明天間（一五世紀後半）、成田下総守頭泰によつて築城されたと伝えられている「忍城」。この城は、湿地帯を巧みに利用した城であつたため、守りやすく攻めにくく、関東きつての名城どうたわれました。その歴史は明治維新まで続きます。

天正十八年（一五九〇）、豊臣秀吉が小田原の北条氏を攻めたおり、時の城主成田氏長は北条氏に味方しました。氏長が小田原城に籠城中、石田三成が軍勢を引き連れ忍城を包囲し、元禄十四年におよぶ堤を築き、利根川・荒川の水を引き入れて水攻めにしました。しかし、水が増しても忍城は落城しません。「それは城が浮くからだ」といわされ「浮き城」という別名が生まれたといえられています。

忍城は小田原城降伏ののち開城し、ここに成田氏の支配は終わりを告げました。

しかし、江戸時代には親藩・譜代一六人の城主が在城し、忍藩十万石の要として栄えていたそうです。



忍藩十万石の面影



その忍城も、明治維新とともに取り壊されてしましましたが、市内には今も堤下町當時の面影を残すところがあります。そのひとつが、

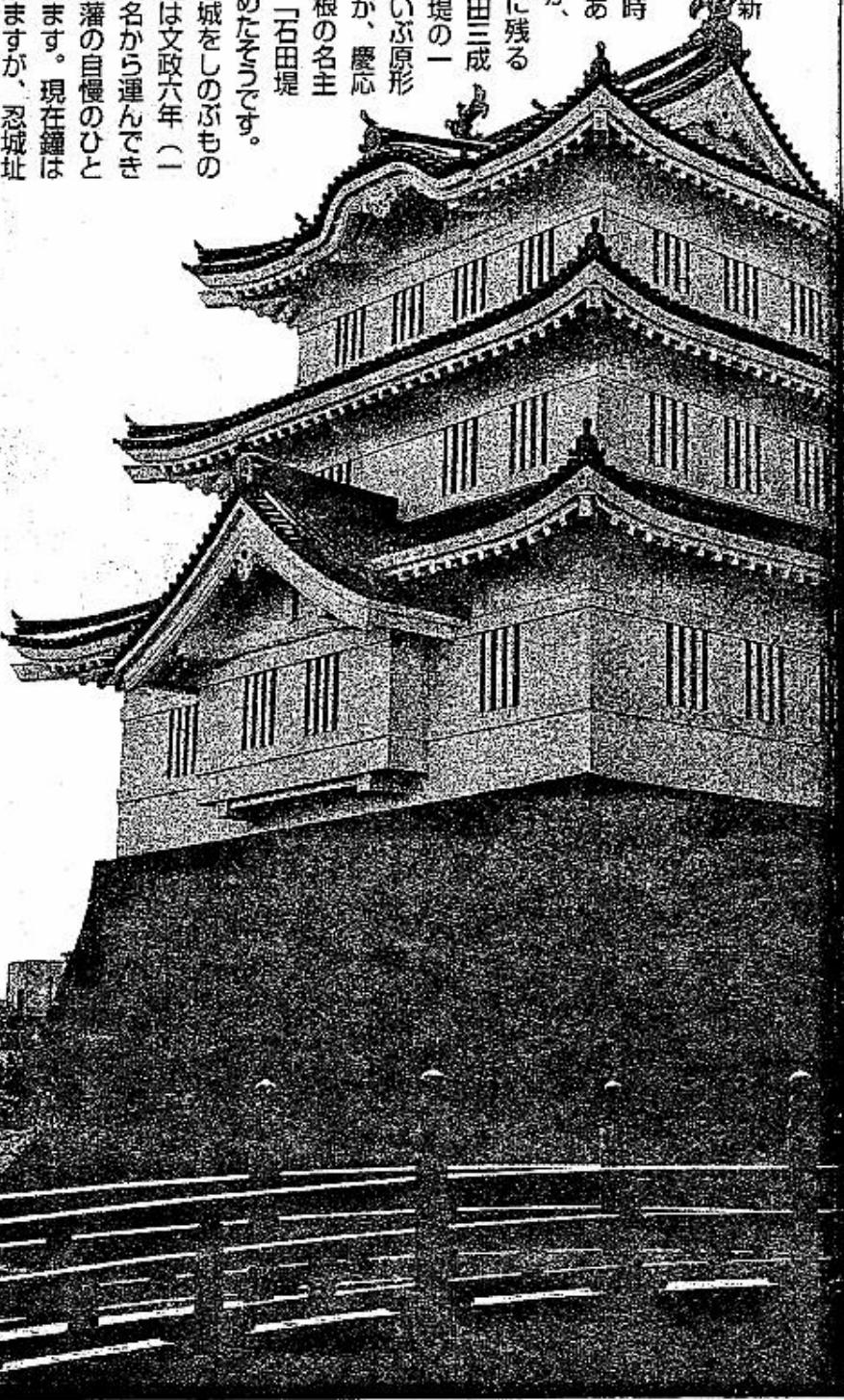
市の南部、堤根地区に残る

「石田堤」、すなわち石田三成

の水攻めでつくられた堤の一部です。開発などでたいぶ原形はそこなわれていますが、慶応二年（一八六六）、堤根の名主増田五左衛門豊純が、「石田堤碑」をたてて保存に努めたそうです。

石田堤と並んで、忍城をしのぶものが「時鐘」です。時鐘は文政六年（一八二三）松平忠堯が桑名から運んできたもので、その音は忍藩の自慢のひとつだったといわれています。現在鐘は博物館に展示されていますが、忍城址内に摸造された鐘が今日もなお除夜の鐘の音を響かせてくれます。

天守閣がなかった忍城にとつて、中性的建築物だったのが「御三階櫓」。現在の櫓は昭和六三年に再建されたもので、その一部は行田市郷土博物館の展示室となり、行田の歴史を語り継いでいます。





御三階橋と郷土博物館入口

郷土博物館

開館時間：午前9時～午後4時30分

月曜・祝日の翌日・毎月第4金曜日・年末年始
休館（☎048-554-5911）

かつての忍城本丸跡に、昭和六三年一月「郷土博物館」が開館しました。ここには、古代から現代までの行田の歴史をもの語る資料が、数多く展示されています。また定期的に講演会や講習会なども開かれ、調査研究の成果も発表されています。

博物館の展示室では、「行田の歴史と文化」を統一テーマとしています。

順路一番田の「中世の行田」では、忍城の築城と石田三成による忍城水攻めまでを、「一番田の「近世の行田」では、江戸時代の忍城の移り変わりと城下町の暮らしを展示しています。展示室の中央には、浮き城と呼ばれた忍城



黒糸縫
二枚胴具足（県指定）

（奥平）松平家の祖松平忠明が、豊臣家の滅亡した大坂の陣で善用した具足と伝えられる。

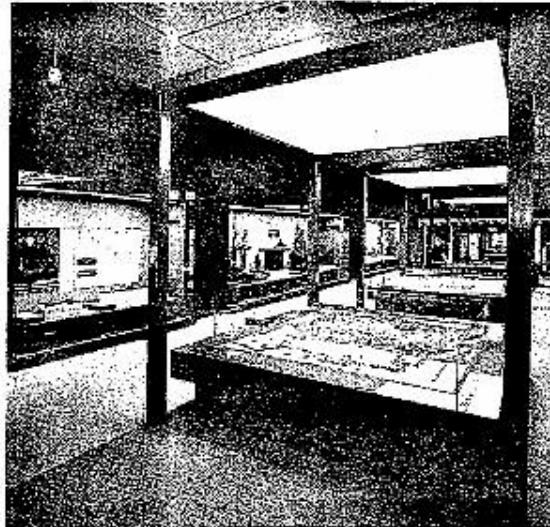
古代から現代まで 歴史を今に伝える 郷土博物館

の模型もあり、城の規模や設計が田で見て理解できるようになっています。

三番田の「足袋と行田」は、さりに時代を進めて、全国一の生産量を誇った行田の足袋製造の歴史と、一工程の分業でつくられる縫製工程を説明しています。行田は江戸時代より足袋製造が盛んでしたが、明治時代以降いち早く機械化に成功して「日本一の足袋の街」として発展しました。その当時の写真や、それぞれの足袋製造会社が商品の包装に貼ったラベルのコレクションなどもみることができます。

また「古代の行田」では、市内から発見された遺跡・遺物を中心に古代の暮らしについて展示しています。行田市

は、さきたま古墳群を始めとして古代の遺跡が大変多いところです。この領地である忍の名所図を家臣の岩崎



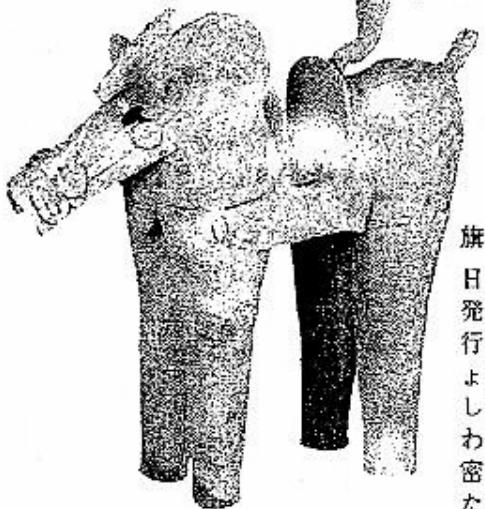
郷土博物館常設展示室

では県内最古の稻作の資料や日本で唯一の旗を立てた馬のはにわなど貴重な出土品が多く展示されています。



旗を立てた馬

日本と朝鮮半島から発見されている、蛇行状鉄器（だこうじょうてつき）を表現した日本唯一のはにわ。当時の大陸との密接な交渉をものがある。



忍名所図会



博物館から連絡通路を通って御二階櫓へ行くと、「階展示室」には、「忍城と城下町」のテーマで、当時の暮らししぶりが描かれた絵馬や生活道具などが展示されており、江戸時代の様子が学習できるようになっています。



天正年間忍城図

永正6年(1509)に忍城を訪ねた連歌師宗長の書いた日記によれば、城の周囲は四方沼水で、霜で枯れた葦が幾重にも重なり、水鳥が多く見えたとある。

『忍名所図会』は、文政六年(1823)伊勢桑名の松平氏が忍城に移り、新しい領地である忍の名所図を家臣の岩崎長容に増補させたものです。

原本は天保年間の筆写で、考古、名勝、旧跡、古刹、風俗などが絶妙の筆致で描かれており、当時の行田をしのばせる唯一の風土記となっています。

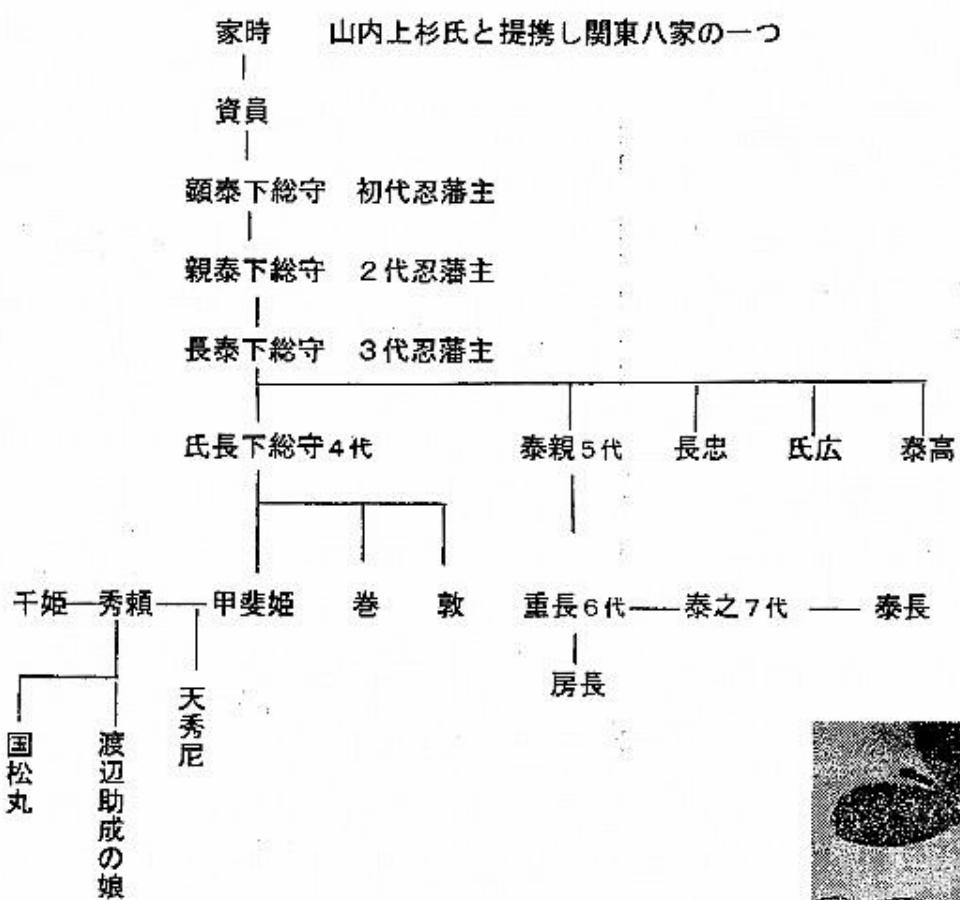
二階の「近・現代の行田」には、写真と昭和三十頃までの生活道具の展示があり、町並みと人々の暮らしの移り変わりが見てとれます。最上階は展望台となっていて、筑波山から富士山までの山並みを三六〇度眺望することができます。

忍城史略年表

一四二三	應永三十一年	成田顯泰生れる
一四二九	永享元年	九・十二成田五郎左衛門尉資員死去
一四三十一	二年	顯泰、八歳にて家督相続する
一四三九	二年	顯泰、下総守に任せられる
一四五七	二年	太田道灌、江戸城築く
一四六七	二年	群雄割拠、戦国時代へ
一四七九	文明一年	足利氏書状に忍城主成田氏記載
一四八〇	文明二年	太田道灌状にも忍城主成田下総守記載
一四八三	文明二年	顯泰、家督を親泰に譲る
一四八四	天文五年	義政、銀閣寺作る
一四九五	天文五年	顯泰逝去
一五一〇	大永二年	北条早雲、小田原原城取る
一五二三	四年	下克上の世の中になる
一五三六	弘治二年	親泰、隠居し家督を長泰に譲る
一五四三	弘治二年	六・八親泰逝去
一五五一	弘治二年	成田下下総守鎮守とする
一五五三	弘治二年	長泰、北条氏康に降る
一五五九	弘治二年	上杉謙信忍城攻めも降らず
一五六〇	弘治二年	長泰、川越城を攻める
一五六五	弘治二年	正月忍城上杉謙信に攻められる
一五六六	弘治二年	一〇月再び攻め来る
一五六七	弘治二年	織田信長、桶狭間で今川義元を滅ぼす
一五七三	天正三年	長泰、隠居し家督を氏長に譲る
一五七五	天正二年	八月氏長、羽生城を攻め破る
"	天正二年	信長、延暦寺焼き打ち
"	天正二年	甲斐姫誕生
"	天正二年	甲斐姫誕生
一五七八	元年	甲斐姫、生母と生き別れる
一五七六	天正元年	信長、安土城を築く
一五七八	天正二年	信長、本能寺に死す
一五八五	天正三年	成田家において連歌会を催す
一五八六	天正四年	秀吉、関白となる
一五九〇	天正一八年	秀吉、太政大臣となり豐臣の姓になる
一五九一	天正一九年	氏長、小田原に出陣
一五九二	天正一九年	小田原北条氏滅び、秀吉天下統一
一五九三	天正一九年	石田三成、忍城を包囲する
一五九四	天正一九年	石田堤を作り水攻めをはかる
一五九五	天正一九年	甲斐姫武勇、真田幸村と交戦
一五九八	天正一九年	和議、忍城開城
一六〇〇	天正一九年	氏長、烏山城主となる
一六〇九	天正一九年	甲斐姫、秀吉の側室となる
一六一四	元和元年	朝鮮出兵
一六一五	元和元年	秀吉逝去
一六一六	元和元年	秀賴誕生
一六一七	元和元年	氏長逝去
一六一八	元和元年	秀吉逝去
一六一九	元和元年	関ヶ原の合戦
一六二二	元和八年	天秀尼誕生
一六三三	寛永一〇年	大坂冬の陣
一六四五	正保二年	甲斐姫、天秀尼と鎌倉東慶寺にお預かり
一九八八	昭和六三年	鳥山城主成田氏断絶
		松平伊豆守信綱、忍城主となる
		二月天秀尼逝去
		九月甲斐姫逝去
		忍城御三階櫓復興

成田家家系図

武蔵国幡羅郡成田（現熊谷市より起る）



氏長
忍→若松福井城 一万石（1590年）

↓
那須烏山城 三万七千石（1591年）

↓
氏長 （1595年）没

↓
氏長（弟）泰親 二万石

↓
泰親（長男） 二万石

↓
泰親（次男） 一万石

↓
慶長19年（1614）冬の陣後病死嗣子なく廃絶（1622）



松平泰之（水戸松平家7代目）



松平泰之（水戸松平家7代目）

◆ 銅人形の童たち

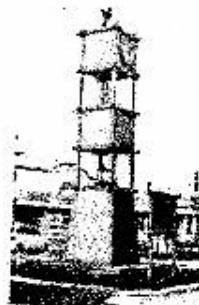
国道125号線の市役所前から栄橋の八六〇米の間に昔ながらの遊びに興じる銅像の童の姿が見える。各々に個性があり、可愛い表情は私達を童の世界へ誘っている様です。

◆ 城西からくり時計

この時計は、忍城御三階櫓を模したデザインです。定刻になると、わらべ唄風の曲が流れ、最初に中段、次に下段と順次開いて子供達が現れ、まりつき、お手玉、竹馬昔なつかしい遊びを披露します。最後に天守閣の扉が開き、お殿様と小姓が現れ、観ている人達を約五分間、郷愁の世界へ誘います。

◆ からくり時計

定刻になるとテーマ曲が流れ、櫓の頂部に忍城主「成田氏長」が馬に乗って現れ城下を見渡します。同時に下段より、男の子と女の子による笛と琴の演奏が始まると、氏長が姿を消し、中段に当時流行の「辻が花」の着物を着た、甲斐姫が現れ曲に合わせて優美に舞います、途中「氏長」が再度現れて舞が終ると、甲斐姫が挨拶をして全員が去っていきます。此の間、約三分ですが観ている人達を、はるか遠い安土桃山時代へと誘う事でしょう。



からくり時計(中央)
市役所前(以前の時計)
跡である
忍城主「成田氏長」と「甲斐姫」が懐か
な匂いを誇る
午前4時、午後9時
間に合わせて人形が
姿をあらわす



銅人形の童たちが遊ぶまち

国道125号線の市役所前
から栄橋の860mの間に、
昔ながらの遊びに興じる銅
像の童の姿が見えます。
それぞれに個性があり、
その愛くるしい表情は、見
る人を思わず童の世界に誘
ってくれます

一度はフライを食べなきやね

お好み焼き風の「フライ」と、
ジャガイモとおからの「ロツケ風」ゼリーフライ」と、

行田自慢の伝統の味。行田名物としてテレビや雑誌に度々登場。

フライってなんだ？

「えつ？ フライって、衣をつけた揚げ物のことでしょう？」というあなた。違うのです。行田のフライは揚げ物ではない、焼き物なのです。

行田でいう「フライ」とは、小麦粉をやわらかく水で溶き、鉄板の上で薄く焼きながら、ねぎ、肉、卵などの具を入れ、好みでソースまたは醤油だれをつけて食べる。クレープのようにふわりとした舌ざわりのお好み焼きのようなものです。

行田市の位置する北埼玉地方は古くから小麦の産地であり、もともと農家で手軽につくれるおやつのようなものでした。安くて持ち運びが便利なうえ、腹も

イエットできることうけあい。ソースの味と香りがとても利いて、モチモチとした食感が大人にも子供にも大人気です。

その名の由来は、小判形であることがら「銭フライ」だったらしい。「銭」がままで「ゼリーフライ」となったとか。

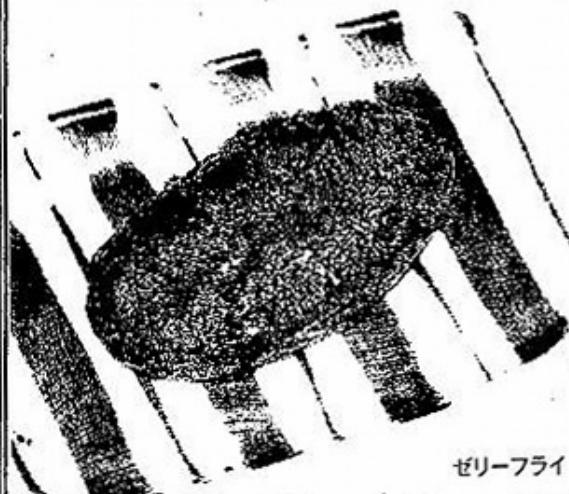
ちがよいこともあって、行田で昭和初期に全盛期をむかえた足袋工場で、働く女工さんの間でおやつとして大ヒットし、販売する店が増えて定着したこと。現在でも20軒以上の店が営業しています。

フライを食べさせてくれる店を、行田では「フライ屋さん」と呼び親しんでいます。行田の街を歩いているとあちこちに「フライ屋さん」を見つけることができます。お値段はリーズナブルでテイクアウトも可能。それぞれ微妙に異なるそこの店の味を楽しむことができます。

行田に来たら是非一度「フライ」をお試しあれ！

ゼリーフライってなんだ？

フライと名前は似ているが、「ゼリー」は全く違う食べ物。お菓子のゼリーとも全く別物。衣のついていないコロッケといった風情のもので、そのルーツは、日露戦争の時、中国から伝わった「野菜まんじゅう」だということです。ジャガイモにねぎやにんじん、さらにたくさんおからが入っているのも特徴で、食物繊維が豊富でヘルシー。おいしくダ



ゼリーフライ

参考資料

大長寺縁起
天神社縁起
横田酒造パンフレット
行田市郷土博物館見学しおり
行田がいいねパートV
忍城甲斐姫物語
足袋とくらしの博物館パンフレット
徳川将軍血族総覧・新人物往来社



古代蓮



◆旗を立てた馬形埴輪
日本と朝鮮半島から発見
されている蛇形状埴輪
(だこうじょうてっそう)を
表現した日本唯一の埴輪、
当時の大陸との密接な交
渉を物語る。